

(様式1)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102548		
法人名	有限会社 サンパル		
事業所名	グループホーム 小吹ケアセンター	ユニット名	こちょうそう ユニット
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町705-8		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870102548-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0870102548-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年1月21日	評価確定日	平成25年3月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>●ユニットカラーである「家のような安らげるユニット」にそって、笑顔をもって相手の立場や話にいつでも耳を傾け、不安を取り除けるような行動や対応を心がけ、家族のような存在を目指しています。</li><li>●重度化に向け、その人に合った個別支援を含め、日々の運動・リハビリに力を入れています。</li><li>●日々の活動支援として、散歩、ドライブ、レクリエーション、行事を通し気分転換が図れるよう心がけています。</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>静かな環境の中で、管理者は併設する同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所と協力し合い、利用者の様々な希望にそった支援をしながら充実した日々を過ごせるよう力を注いでいる。</p> <p>職員は利用者の希望を聞きながら、初詣や花見、菊花展、水族館、名勝地など季節に合わせた外出を支援しているほか、弁当を持参してピクニック気分で行きつけたり、ドライブをしながら湖のほとりの喫茶店でコーヒーを楽しめるよう支援している。</p> <p>外出したがない利用者には庭にテーブルや椅子を用意してお茶を飲めるよう支援をしている。</p> <p>テーブルに花柄のテーブルクロスを掛けたり、折り紙を利用した飾り付けをするなど、利用者が寛いで楽しく過ごせるような雰囲気づくりをしている。</p> <p>居室は8畳で洗面台とトイレが備え付けられており、廊下は車いす同士でもすれ違えるゆったりとした間取りとなっている。</p> <p>利用者は居室に使い慣れた家具を置いたり、本棚に辞書を置いて手紙を書く時に使用するなど、思い思いに居心地よく楽しんで過ごしており、管理者と職員は事業所理念を大切に利用者に寄りそった支援をしている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームとしての理念を掲げ、それを基に各ユニットが利用者の状況を踏まえ、各々のユニットカラーを打ち出し取組んでいる、常日頃より職員が意識できるよう職員休憩室や目に付くところに掲示している。また、年度始めの施設便りにユニットカラーをのせ、家族にも伝わるようにしている。	「人としての尊厳を守り」や「家庭的な楽しい雰囲気」で、「住み慣れた地域の中で、残された力を活かし、暮しの喜びと自信を持った安心した生活」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関に掲示するとともにミーティング時に話し合って全職員で共有している。 年度初めに職員で話し合い、理念にそったユニット毎の一年間の目標を決めるとともに、事業所便りで家族等に周知を図り、共有しながら理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりする機会の確保に努めている。市の社会福祉協議会に働きかけてシルバーリハビリ体操のボランティア派遣や行事開催時のボランティアを要請し、交流を図っている。	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしているほか、ゴミ袋を携えて周辺のゴミ拾いをしている。 毎月シルバーリハビリ体操のボランティアが来訪するほか、事業所の行事に踊りや歌のボランティアが訪れている。 隣地の他法人の事業所と合同で開催する夏祭りに地域の子ども会を招待するほか、町内の祭りの神輿が事業所に立ち寄ってくれるなど、日常的に地域と交流している。 中学生の職場体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症ケアに関すること（施設内勉強会資料の説明・配布）を利用者の生活状況も踏まえ伝えることで理解に結びつくように取組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取組んでいる内容について報告し、意見をもらうようにしている。	運営推進会議は家族等や市職員、地域住民の代表を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況報告や行事報告、事故報告をしているほか、インフルエンザ予防接種や感染症対策など事業所の取り組みを報告し、意見交換をしたり話し合い、結果を運営に反映させている。 会議に他法人の事業所職員や知見者の参加を検討しているが、多くの参加者を得るまでには至っていない。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組みや課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、引き続きより多くの人々の参加が得られるよう働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者も多く、月初めの状態報告のほか、利用者の状態変化に応じ連絡を取り合い相談・助言等を受けている。	市担当者が運営推進会議に出席している。管理者は電話や郵便で済む要件の時にも市に出向くよう努め、情報交換をしたり、提出書類等の手続きでの疑問点を聞くなど、市担当者に事業所の実情を伝えながら協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・事故・虐待予防委員会を設置し、勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。	契約書に身体拘束や行動制限を行わないことを明記している。 身体拘束排除のための委員会を中心に「身体拘束排除のための取組みに関する理念及び方針」を作成するとともに、「身体拘束ゼロへの手引き」を基に内部研修を実施して全職員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。 2階の入り口は安全のために家族等の同意を得て施錠しているが、職員は解錠に向けて話し合い、1時間毎に利用者の所在を確認して「所在確認票」に記録している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・事故・虐待予防委員会を設置し、勉強会を事業所の中で実施し理解を深め、職員の共有認識資金を図っている。高齢者（特に認知症）の方に対して気遣いや配慮に欠けた言葉、接し方にならないように意識し、職員同士注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	保健婦による勉強会を事業所の中で実施したりしているが、随時的な取組みとなっているため、外部研修等にて定期的に学ぶ機会の確保に努める。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入院となった場合等の考え方や取組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設けているとともに家族には訪問時や手紙にて利用者の状態を報告しながら、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけ家族の意見等聴衆に努めている。利用者においても、日常的に思いを聴衆し、出された意見、要望等は会議で話し合い、反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット間の意見や提案をユニットリーダーが取りまとめ、月一回の代表者会議で管理者へ報告している。現場の状況を把握した上で勤務体制や配置異動の検討を行っている。	管理者は常に話し易い環境づくりに努めながら日常的に職員の話を受けているほか、月1回職員全体会議を開催して意見や要望、提案を出せる機会を設け、「有給休暇の取得に関する希望」や「利用者を遠足に連れて行きたい」など、出た意見等を運営に反映させている。 ユニットリーダーがユニット毎の意見や提案を取りまとめ、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催する月1回の代表者会議で出た意見等を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換を図れる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう務めている。一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、統制を図りつつ働く姿勢、能力等が反映される人事考課にて各自のモチベーションがあがるよう条件の整備に努める。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、入社1ヶ月間は1対1のOJTの体制をとり、指導を実施している。各委員会を設置し、委員会ごとに施設内研修を受け持ち、課程を通して職員の成長に繋がる取組みをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の協議会があり、その中でスタッフ研修に参加し質の向上に励んだり、外部研修や施設行事を通し、他事業所等への相互訪問等を取り入れ、サービスの質の向上へと繋がる取組みを取り入れていく。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用を開始する際、必ず本人に会って心身の状態や本人が困っていること、不安なこと、本人の思いに向き合い、安心してもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がおかれている状況を理解し、家族の立場にたって気持ちを受け止め、家族等の思いに耳を傾けながら関係性が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族が必要としているサービスを検討し、他関連のサービス支援と連携をとりながら、安心してサービスを利用できるように心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームで生活しやすい環境が提供できるよう、家族のような気持ちで接することを心がけ、共支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族ともに互いに思いを素直に伝えることができない場合もあり、双方から伺った思いを現様子と照らし合わせながら、仲介し伝えることで、喜ばれたり、安心へと繋がっている状況がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主に手紙で交流を続けていることが多い。電話や手紙での連絡を取り持つ等、つながりを継続できるように支援している。昔から利用している理美容に行き続けている利用者や一人ひとりの生活習慣を尊重している。	利用者の友人や教え子が来訪しているほか、利用者は家族等の協力を得て法事や墓参りに出かけている。 職員は利用者にかかってくる電話を取り次いだり、利用者が事業所の電話や利用者の携帯電話で友人や家族等と話ができるよう支援しているほか、暑中見舞や年賀状を出せるよう文章作成の手助けをし、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。 職員は利用者が馴染みの理・美容院に出かけられるよう付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をみて、共同スペースでの席を配慮したり、散歩・外出支援の調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境でもこれまでの生活が継続できるよう、これまでの生活環境や支援の内容、留意点等について情報提供し、連携を心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で利用者の話に耳を傾け把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、意向にそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者の方は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話を聞いたりしながら、利用者の習慣や生活歴などの把握に努めている。家族にも情報の大切を伝え、情報を伝えてもらいながら、本人の全体像を知る取り組みをしている	/		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、その人ができることに注目し、その人の全体の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に3ヶ月に1回のペースでカンファレンスを実施している。本人に必要なことや気をつけることを話し合い、ケアプランに入れている。			介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握するとともに、計画作成担当者を中心に職員で話し合って作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。 利用者の日々の様子を個別のケース記録簿に記録して毎月モニタリングを行うとともに、3ヶ月毎に計画作成担当者と職員で担当者会議を開いて見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合には現状に即した介護計画に見直している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個別のケース記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。介護記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館の団体貸出の利用や協力施設のリフトカーやマイクロバスを借りることもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の継続・変更についてや入所後、直近で通院歴の症状のない診療科への受診が検討される場合において家族の通院先の意向の確認を行い、入居前の関係性が継続できるよう対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 協力医療機関以外の受診は基本的には家族等が付き添うこととしているが、希望にそって職員が付き添い、結果に変化があった場合には家族等に電話で報告するとともに、受診記録票に記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師や隣接施設の看護師と連携をとっている。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等に気づいたことがあれば、協力病院の看護師とも利用者の状況を密に相談し、指示・助言を受けながら、日々の健康管理に努めている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が定期的に病室を訪問し、本人の病状について看護師に聞き取りをし、状況把握を行っている。また、早期退院できるよう病院より今後の方向性や受診についての説明を受け、家族・主治医とともに話し合いの場を持ち、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為の発生しない、身体的機能の低下及び認知症の進行に伴う重度下については、長期的支援の継続ができています。本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとりながら、安心して最後を迎えられるように、随時確認しながら支援に取り組んでいる。	事業所は基本的には看取りは行わない方針で、「重度化対応に関する指針」を作成し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明しているが、どのような状態になったら重度化や終末期に入ったといえるのかを明記するまでには至っていない。利用者や家族等から看取りの希望がある場合は医療連携体制を整えて看取りができるように取り組んでいる。	「重度化対応に関する指針」に、どのような状態になったら重度化や終末期に入ったといえるのかを明記するとともに、看取りを行う場合に備えて終末期や看取りに関する内部研修を実施し、職員で共有することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルを基に職員はいつでも振り返りができるようになっている。また、定期的な勉強会にて知識・方法を取得できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に訓練の年間計画を立て定期的に消化・避難誘導、通報訓練を行っている。総合訓練時に運営推進会議メンバー（地域住民・家族）に参加して頂いて訓練を行っている。	職員による防災委員会が年間計画を立て、災害の種類や想定時間を変えて事業所独自の避難訓練を2ヶ月に1回実施している。年1回消防署立会いの総合避難訓練を実施し、近隣住民や家族等を含む運営推進会議の委員が参加している。避難訓練で明らかになった課題や反省点、訓練の結果を記録して話し合い、次回の訓練に活かしている。緊急連絡網を事務室に掲示するとともに、災害の発生に備えて食糧や飲料水、毛布などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや日常的な声かけに一人ひとりその人に合わせた声の大きさやトーン、口調を常に意識している。「個人情報使用に関する同意書」について、利用目的を明確し、同意を得ている。面会簿は、本人・家族の要望を伺いながら、ノート形式やカード形式での柔軟な対応をしている。	契約時に利用目的を明記した「個人情報使用に関する同意書」を作成し、家族等に説明して同意を得ている。 職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように目立たずさりげない言葉かけをするとともに、声の大きさやトーンに配慮している。 前回の外部評価結果で課題となったノート形式の面会簿については運営推進会議に諮って話し合うとともに、家族等の意見を取り入れて個人毎のノート形式に改善している。 個人情報に関する書類の保管場所に十分配慮をするまでには至っていない。	個人情報に関する書類は、日常的に記録するものと大事な個人情報を記録したものを区別して保管場所を変えたり、鍵のかかる書棚に保管するなど、取り扱いには十分配慮することが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の参加の有無や起床時間等本人に伺いながら無理のない生活ができるよう心がけている。利用者が言葉に出せない思いがあることを理解し、表情を読み取ったり、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望を優先し、レク活動など無理強いしない対応をしている。利用者のペースで一人の時間（手紙書き、音楽鑑賞等）等確保できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期やその日の天候にあった服を利用者の能力に合わせ、一緒に選択している。全介助の方には、鏡で着ている服や髪型をみてもらい、表情から本人の意思をくむように努めている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。職員とともに食事を取りにいたり、食後の食器拭きなど片付けをしてもらっており、利用者も個々の役割の中で積極的に行っている。	管理栄養士が作成した献立となっている。利用者の希望により外食を取り入れたり、弁当を持参して公園に出かけるほか、月1回「クッキング」と称してうどんやおやつ作りを支援しており、食事に変化を付けて楽しめるよう工夫している。利用者は能力に応じて下膳やおしぼりたたみ、食器やお盆拭きなどの役割を担っている。職員はホワイトボードに献立を書き、利用者に声に出して読んでもらうとともに、利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気ですりできるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表にて1日の状況を把握し、その日の状況に合わせて、利用者の飲みやすいものを用意し水分量の確保に努めている。食事本人の好き嫌いをくみとり、対応可能な限り代替品を提供しバランスよく一定した摂取量が保てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・うがいを利用者の能力に合わせて、声かけ、介助にて口腔内の確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握をし、案内する時間を少し変えたり、声かけの量を増やしたりしている。夜間オムツ使用の方でも昼間の時間帯はできるだけトイレに座ってもらい、トイレでの排泄を心がけている。尿とりパット等の使用方法についても、会議で見直しを行いながら、適した対応を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら声かけ誘導し、日中はおむつの使用を減らせるよう取り組んでいる。居室にトイレが設置されているため夜間でもトイレで排泄ができるように支援するなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を把握し、水分摂取量の少ない方は甘めのジュースやゼリーなど口当たりを変えながら摂取してもらえるようしたり、体操・歩行運動も働きかけながら、便秘予防と対応に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日は基本固定となっているが、習慣となり自分の曜日になると自ら準備を始める現状になっている。体調不良や気分的に入浴したくない場合等は翌日に変更したりと柔軟な対応をしている。また、生活のリズムで午前・午後の入浴希望をきき、入浴回数が維持できるようにしている。	入浴の時間や曜日は決まっているが、利用者の希望や状況に応じて入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら入浴に誘ったり、時間帯や入浴日を変えるなど無理なく入浴ができるよう促している。 季節に合わせて柚子湯を取り入れたり、入浴剤を使用してゆったりと寛いだ気分で入浴ができるよう工夫している。 脱衣室にエアコンと床暖房を設置し、浴室との温度差がないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書を個人ファイルに保管し、全職員にわかるようにしている。処方の変更があった場合は、連絡ノートで伝達し、状態変化の観察に努めている。飲み忘れや誤薬の予防として、飲んだ薬の袋は回収し、食後に全て確認作業をしている。薬を配布する者、服薬後の最終確認をする者を固定し予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった活躍の場面（食器拭き等）で力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな事を頼み、感謝の言葉を伝えるようしている。野菜作り、調理等、利用者の経験や知識を発揮する場面を作っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺・施設内中庭等はいつでも外出ができるようになっている。利用者の声を踏まえながら、計画の下カフェへお茶しにいたり、買物と一緒に出かけたりしている。	<p>天気の良い日は利用者の希望や体調を考慮しながら近所に散歩に出かけられるよう支援している。</p> <p>利用者の希望を聞きながら初詣や花見、菊花展、水族館、名勝地など、季節に合わせた外出を支援しているほか、弁当を持参してピクニック気分で出かけたり、外食やドライブをしながら湖のほとりの喫茶店でコーヒーを楽しめるよう支援している。</p> <p>外出したがる利用者には庭にテーブルや椅子を用意し、お茶を飲みながら外気浴ができるよう支援している。</p> <p>生け花の先生をしていた利用者が、事業所に飾る花を買いに出かけられるよう職員が付き添っている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、現金を自身で管理し、施設内売店や買物外出した際に自分で支払っている。	/	
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。電話は施設用のPHSで外部とのやりとりはいつでもできるようになっており、自室で周囲を気にすることなく話もできるようになっている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の方が多く、広く使えるようなテーブルの配置などスタッフ間で常に話し合いをもっている。食堂のまわりを中心に全員で作成した作品や行事の写真、季節の花を飾る等しながら、居心地のよい空間作りに工夫している。	<p>共用空間には十分な採光が取り入れられており、職員は利用者が居心地よく過ごせるよう温度調節をしたり、音楽やテレビの音量に気を配っている。</p> <p>玄関や居間、廊下には利用者と職員と一緒に制作した手芸品や作品のほか、写真や季節の花、雛人形などが飾られており、利用者が季節を感じながら穏やかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>居間や廊下の所々にソファや椅子を置き、利用者が寛いで過ごせるよう工夫をしている。</p> <p>職員は利用者が楽しく過ごせる空間づくりを話し合い、テーブルに花柄のテーブルクロスを掛けたり、折り紙を利用した飾り付けをしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるフロアにソファを話して2つ置き、数人で座り談笑されたり、一人でのんびり過ごしたりできるようにしている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ごとに使いなれた家具を持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地らしさに配慮している。ベットの向きや配置も利用者の状況に合わせて、利用者・家族と相談のもと工夫している。	居室にはベッドや洗面台、トイレが備え付けられているほか、カレンダーを壁に掛けたり室内用物干しを置き、利用者が自立した生活ができるよう配慮している。 利用者はテレビやラジオ、タンス、机、本棚、家族の写真、位牌、手作り作品、観葉植物など使い慣れた物品を持ち込み、思い思いに寛ぎながら居心地よく過ごしている。 手紙を書く時などに使用ができるよう本棚に使い慣れた辞書を置いている利用者があり、その様子から事業所の理念である「残された力を活かし、暮らしの喜びと自信を持った安心した生活」が支援に活かされていることが確認できる。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子同士でもすれ違える廊下の広さを確保し、歩行者も安全に移動できるようにしている。本人の身体能力に応じ、ベットの配置位置を検討し、自身の力で動けるように個々に合わせた配慮をしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの ○ 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 小吹ケアセンター

作成日 平成 25 年 4 月 1 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	基本的に看取りは行わない方針で「重度化に関する指針」を作成し、事業所でできること・できないことを利用者・家族に説明しているが、どのような状態になったら重度化や終末期に入ったといえるのかを明記するまでには至っていない。	重度化・看取りに関する、利用者・家族の希望に添えるサービスの提供が行える。	①「重度化に関する指針」に、どのような状態になったら重度化や終末期に入ったといえるのかを明確にし指針に打ち出す。②看取りを行う場合に備えて終末期や看取りに関する内部研修を実施、職員で共有する。③重度化・終末期に関する具体的なマニュアルの作成。④医療行為や医療的管理を要する場合に対応できる体制の整備（看護師及び医療機関の調整）	36ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

